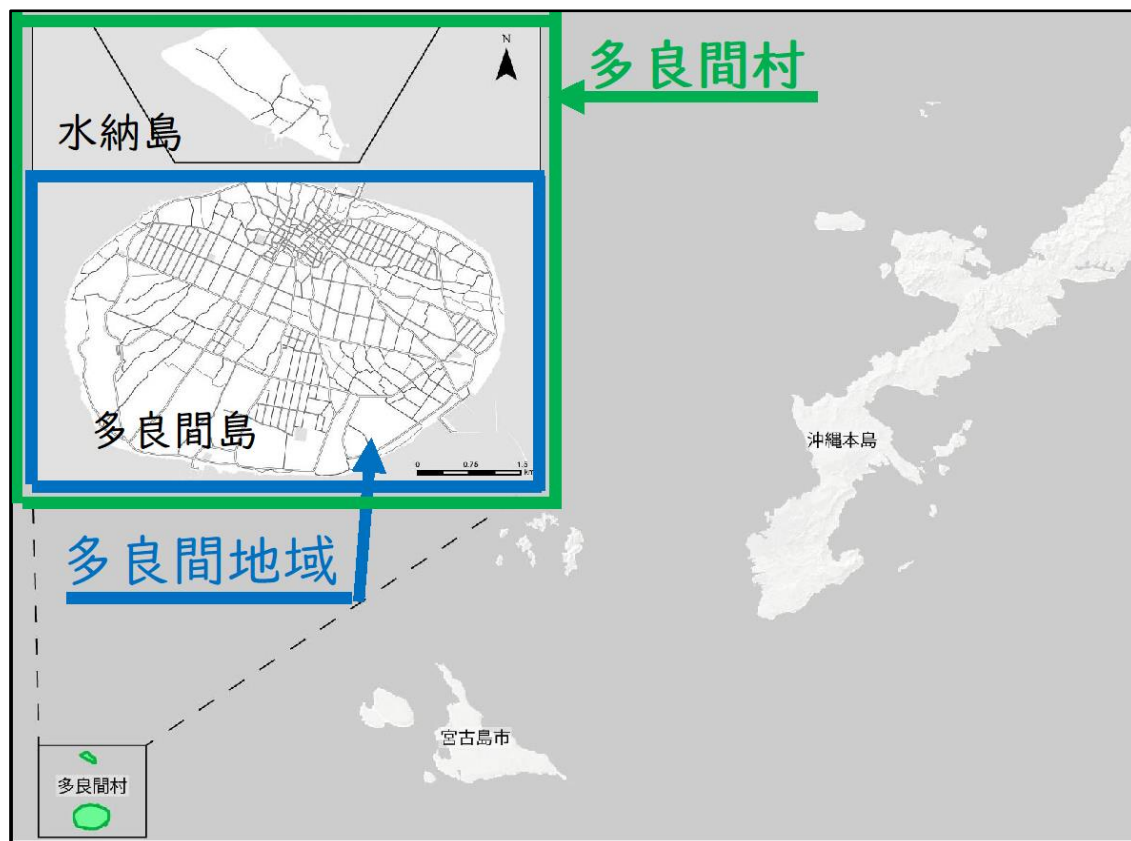


○添付資料

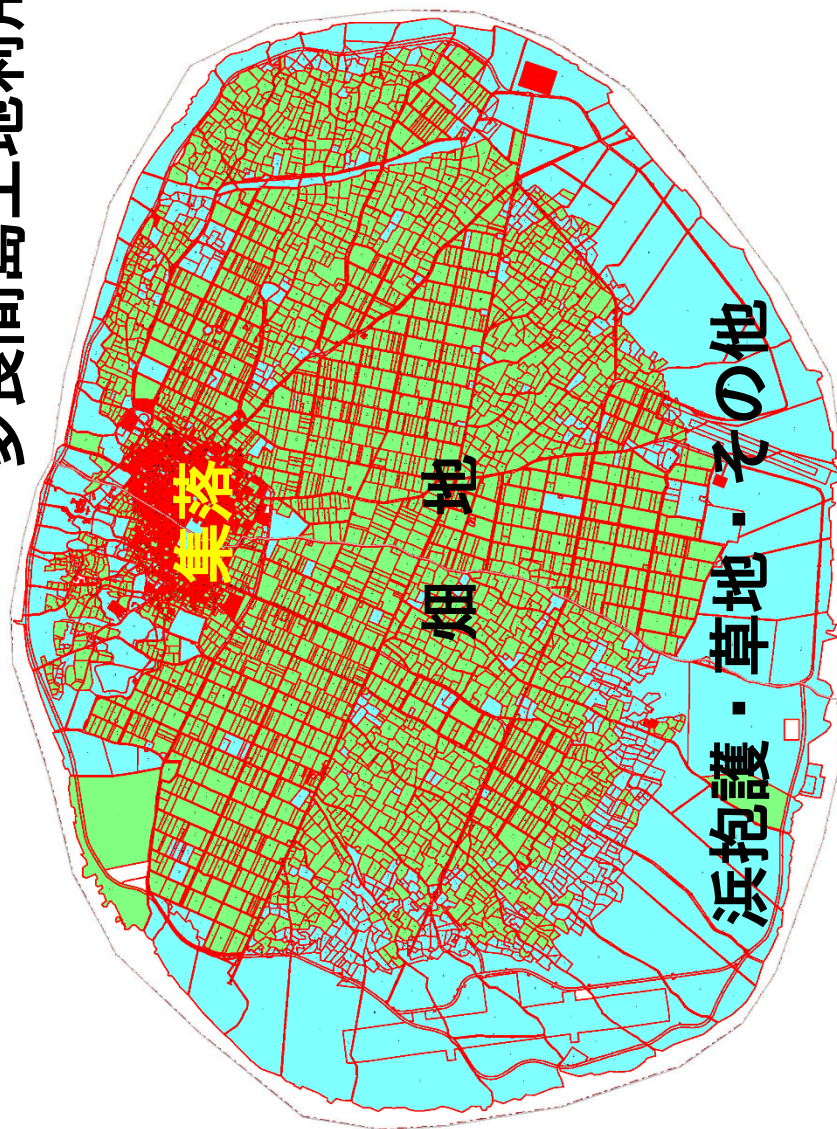
1. 地域の位置図、土地利用図〈地域の位置図〉(P133)
2. 多良間独特の言葉の発音と特殊音の表記 (P136)
3. 島ごとエコファーマー (P139)
4. 多良間村堆肥製造施設 (P141)
5. 琉球王朝時代の多良間島の抱護と林政八書が「日本林業遺産」に認定 (P142)
6. 「おきなわの名木」100選の認定で、「多良間の名木」は10本指定を受ける (P142)
7. 「沖縄、ふるさと百選」の「集落部門」で認定 (P142)
8. 「おきなわの名木」100選の認定で、「多良間の名木」は10本指定を受ける (P143)
9. 「日本で最も美しい村」連合に加盟村 (P144)
10. 「多良間県立自然公園（平成23年3月29日指定）」に見る生物多様性 (P145)
11. 写真で見る生物多様性（浜抱護の林帯に生息する鳥類やヤシガニ）(P153)
12. 写真で見る腰当森（クサティムイ）・浜抱護 (P154)
13. 写真で見る祭祀「スマフシャラ（秋祓い）」(P155)
14. 写真で見る祭祀「スツウプナカのトゥブリでの安全・豊漁祈願」(P156)
15. 水納島における抱護の造成史 (P157)

1. 地域の位置図、土地利用図

〈地域の位置図〉



多良間島土地利用図 1





2. 多良間独特の言葉の発音と特殊音の表記

【多良間独特の言葉の発音と特殊音の表記】

h → イ → 飯

gi → ギイ → 漕ぐ (クギイ)

Pi → ピイ → 火、日

bi → ビイ → 瓶 (ビイン)

Li → リ → (マーリ)

m → ム → 芋

※ 特殊音の表記と用語

- | | |
|--------------|---------------------|
| ▶ イをイと発音する | ・ 白米 (マイ) ・ 結 (ユイ) |
| ▶ ギをギイと発音する。 | ・ 釘 (フギイ) |
| ▶ クをギイと発音する。 | ・ 行く (イギイ) |
| | ・ 吹く (フギイ) |
| ▶ グをギイと発音する。 | ・ 漕ぐ (クギイ) |
| ▶ クをフと発音する。 | ・ 櫛 (フス) ・ ロ (フツ) |
| | ・ くら (フラ) |
| ▶ ケをキと発音する。 | ・ 池 (イキ) ・ 竹 (タキ) |
| ▶ サをシャと発音する。 | ・ 草 (フシャ) ・ 笠 (カシャ) |
| | ・ 野菜 (ヤシャイ) |
| ▶ シをスと発音する。 | ・ 牛 (ウス) ・ 櫛 (フス) |
| ▶ チをツと発音する。 | ・ ロ (フツ) |
| | ・ 千鳥 (ツドウリ) |
| ▶ ネをニと発音する。 | ・ 姉 (アニ) ・ 針金 (カニ) |

▶ハを^パと発音する。

▶ヒを^{パイ}と発音する。

▶ビを^{バイ}と発音する。

▶ホを^ブと発音する。

▶ミを^ムと発音する。

▶ムを^ムと発音する。

▶モを^ムと発音する。

▶リを^リと発音する。

▶ルを^リと発音する。

・船^{ふね} (フニ)

・花^{はな} (バナ) ・箱^{はこ} (バク)

・針^{はり} (バリ)

・昼^{ひる} (ピイル) ・人^{ひと} (ピイトウ)

・左^{ひだり} (ピイダリ)

・旅^{たび} (タビイ) ・瓶^{びん} (ビイン)

・紙^{かみ} (カビイ)

・星^{ほし} (ブス) ・外^{ほか} (ブカ)

・掘^ほる (ブリ)

・神^{かみ} (カム) ・海^{うみ} (イム)

・耳^{みみ} (ミム)

・積^つむ (ツム) ・かむ (カム)

・胸^{むね} (ムニ)

・桃^{もも} (ムム) ・芋^{いも} (ム)

・針^{はり} (バリ) ・左^{ひだり} (ピイダリ)

・鳥^{とり} (トウリ)

・掘^ほる (ブリ) ・張^はる (バリ)

・刈^かる (カリ)

多良間・特殊音の表記（促音には小さなツをつける）

No.	方言表記	共通表記法	音 声 例	備 考
1	イ°	I 又は $\dot{I}$	<u>イ°ー</u> （飯）	
2	ヴィ	$^{\circ}\text{Vi}$	<u>ッヴィ</u> （売れ）	
3	ウェー	We :	<u>ウェー</u> ダ（ねずみ）	
4	キイ°	$\text{K}^{\circ}\dot{I}$	<u>キイ°</u> ダミー（切って）	
5	ギイ°	$\text{g}^{\circ}\dot{I}$	ク <u>ギイ°</u> （漕ぐ）	
6	ビイ°	$\text{P}^{\circ}\dot{I}$	<u>ビイ°</u> （火）（日）	
7	ビイ°	$\text{b}^{\circ}\dot{I}$	<u>ビイ°</u> ン（瓶）	
8	ふイ°	$\text{f}^{\circ}\dot{I}$	ツ <u>ふイ°</u> （作る）	
9	ふァ	fa	<u>ふァ</u> イ（食べ）	
10	ミイ°	$\text{m}^{\circ}\dot{I}$	<u>ミイ°ー</u> （新しい）	
11	リ°	$\text{L}^{\circ}\dot{I}$	マー <u>リ°</u> （まり）	
12	ティ	ti	<u>ティ</u> （手）	
13	ディ	di	<u>ディ</u> ーイカ（さあ行こう）	
14	トゥ	tu	<u>トゥ</u> リ°（鳥）	
15	ドゥ	du	<u>ドゥ</u> ル（泥）	
16	ム°	m	ム <u>ム°</u> （桃）ム°（芋）	
17	シイ°	$\text{S}^{\circ}\dot{I}$	ク <u>シイ°</u> （腰）	
18	ッス	$^{\circ}\text{Su}$	<u>ッス</u> ッジャ（サトウキビ）	
19	スイ	$^{\circ}\text{Si}$	フ <u>スイ</u> バル（地名）	
20	シ	Si	<u>ッシー</u> ッシー（鶏などを追い払うときの無声音）	
21	ザァ	Za	イ° <u>ザァ</u> （ ^{えな} 胞衣）	
22	ツァ	tsa	ア <u>ツツァ</u> （下駄・ただし宮古の方言）	
23	ズ	Zu	イ°ズ（魚） <u>イ°ズ</u>	
24	ッふ	$^{\circ}\text{fu}$	<u>ッふ</u> ムス（黒い物）	

島ごとエコファーマー さとうきび作型別 肥培管理一覧

平成 26 年 12 月作成
エコファーマー
沖縄県
多良間地区さとうきび生産組合



夏植え	基肥 (芽出し肥)	追肥 1 回目	追肥 2 回目
時 期	植付時もしくは 植付後 1～2 ヶ月	平培土時期 (11～12 月)	高培土時期 (3～4 月)
化学肥料 施肥量	化成 804 反当たり 2 袋	化成 804 反当たり 1.5 袋	善きび一番 反当たり 2.5 袋
農薬使用回数	栽培期間中 8 回以内(除草剤、粒剤含む)		

春植え	基肥(芽出し肥)	追肥 1 回目
時 期	植付時もしくは 植付後 1～2 ヶ月	平培土時期(～4 月)
化学肥料 施肥量	化成 804 反当たり 2 袋	追肥名人 反当たり 2 袋
農薬使用回数	栽培期間中 6 回以内(除草剤、粒剤含む)	

株出し	基 肥	追肥 1 回目
時 期	株出し管理時期 (2～3 月)	平培土時期(～5 月)
化学肥料 施肥量	化成 804 反当たり 2 袋	追肥名人 反当たり 2.5～3 袋
農薬使用回数	栽培期間中 6 回以内(除草剤、粒剤含む)	

※使用する資材や管理時期は一例です。
こちらを参考にさびの生育具合や天候等にあわせて適期・適切に取り組みましょう。

参考：肥料 1 袋に含まれるチッ素分の早見表

肥料名	1 袋重 (kg)	1 袋に含まれる量 (kg)	チッ素	リン酸	カリ
化成 877			3.6	1.4	1.4
化成 804			3.6	2.0	2.8
善きび 一番	20		4.4	1.6	1.6
夏きび 一番			4.4	1.6	1.6
追肥名人 470			4.8	1.4	2

多良間地区の島ごとエコファーマーでは
反当たりの化学肥料由来のチッ素量を

夏植えで **24.5kg 以下**

春植えで **17.5kg 以下**

株出しで **21.7kg 以下**

となるよう取り組みます。
たとえば、夏植え 24.5kg のチッ素を
化成 804 にすべておきかえると

24.5kg ÷ 3.6kg/袋 = 6.8 袋
約 7 袋を肥培管理に用いることになります。

参考 2: さとうきび栽培に用いる農薬の特性

平成 26 年 12 月現在
メイテュウウ類による芯枯れ、折損被害が毎年のように発生しています。適期防除に努めて
被害が多発する前に対処しましょう。下の表は、近年利用が拡大している農薬の一部です。

農薬名	規格	使用回数	使用方法
プリンスペイト	3kg/袋	1 回	土壌混和
オンコル OK 粒剤	3kg/袋	1 回	株元散布または土壌混和
サムコルフロアブル 10	200ml/本	3 回以内	5000 倍希釈
ヨトウコン-I (イネヨトウコノコ)	50m/巻	-	畑内・周囲に設置

※一部換装したものです。袋や容器のラベルをよく読み正しい使用を行います。

各農薬の特徴と注意点

- **プリンスペイト**… 農薬の成分に虫が好むエサを配合しているため、害虫をおびき寄せて効果を発揮します。そのため、**稲付時に用いると効果的です。**
- **オンコル OK 粒剤**… 根から吸い上げた薬剤の成分がさとうきび全体に浸透し効果を発揮します。そのため、**稲付時や株出し管理時期に用いると効果的です。**
- **サムコルフロアブル 10**… 長期残効性をもつため**早めの散布を行うことで予防的にイネヨトウの防除を行うこと**ができます。また 5000 倍で使えるため経済的です。
- **ヨトウコン-I**… イネヨトウの合成フェロモンを放出し、成虫の交尾をかく乱することで密度を低下させます。**地域全体で設置すること、直接的に虫を殺す薬剤ではないことに留意しましょう。**

TEL:0980-79-2503

エコファーマーに
ついての
問い合わせ先

多良間村役場 産業経済課 / 農業改良普及課 多良間駐在



たらぴんと学ぶ!

～多良間村の島ごとエコファーマー～

平成26年6月に多良間地区さとうきび生産組合がエコファーマーとして認定されました。
新聞等のマスメディアでもその話題は取り上げられ、その認知度は確実に広がっています。
このパンフレットでは、島のゆるキャラであるたらぴんと一緒にエコファーマーについて解説していきます。



最近、島で「エコファーマー」ってよく耳にするけど
エコファーマーってなんのことなのかなあ…?

やあたらびくん。エコファーマーのことが知りたいかい?



知りたい! …けどきみはだれ??

わたしは多良間のエコファーマーを司守のエコマーくんだよ。よろしくね。
エコファーマーというのは、「沖縄県持続性の高い農業生産方式の導入に
関する指針」に基づき作成する「持続性の高い農業生産方式の導入に関す
る計画」の原知事認定を受けた農業者”のことだよ。難しく感じるかもし
れないけど具体的に、

- ①堆肥などの有機質資材による土づくり
- ②化学肥料の使用の3割低減
- ③化学合成農薬の使用の3割低減

というような環境にやさしい農業（環境保全型農業）に取り組
むことで、環境への悪影響をできるだけ小さくしながら安全・安心な農産
物をつくる農家のことなんだ。



なんだかわからずかしそうだね・・・
要するに肥料や農薬を使い過ぎると環境に良くないから少し減らそう
なっていうことかな?そのエコファーマーの取り組みをするとどうなるの?

そうだね。じゃあ、たらびくんは化学肥料や農薬を適正に使われたさ
とうきびと必重以上に使われたさとうきびとではどちらを食べたいかい?
それに、環境に悪影響を与える農薬を減けていると畑やそ
の周りだけじゃなくて地域の生活環境にも影響があるか
もしれない。そうすると農業自体が続けられなくなっ
てしまうからね。



エコファーマーの取り組みを通じて安心して農業が続けられる、
安全安心な農産物を作ることができるという、農家も農産物を
食べる人も安心できることが大事なんだよ。

たしかに安全安心なさとうきびが食べたいなあ!
でもなぜ多良間村でエコファーマーに取り組むの?

わたしたちが住む多良間村は沖縄県でつくられる黒糖の約40%
を生産しているさとうきびの盛んな地域なんだ。でもその一方で、ほか
の地域より化学肥料を多く使っている地域でもあるんだよ。
それと、平成20年には地下水の水質調査で水質の悪化が報告され、その原
因の一つとしてさとうきびの肥料養分が流れ出ている可能性があったんだ。

そうだったんだ…ほくちの多良間村はいつまでも
キレイでいてほしいなあ。

地域の産業をさえてきたさとうきびが
地域の環境に悪影響を与えてはいけない!

その思いで、農家や製糖工場、役場などの関係者みんなが協力してエコ
ファーマーの取り組みにつながったんだよ。
ちなみにさとうきびのエコファーマーは県内初なんだよ!

それはすごいね!ほくちもさとうきびを作ってみない?
どのくらい肥料と農薬は使っているの?

さとうきびには夏植え、春植え、株出しっていう3つの作り方があ
るんだけど、エコファーマーの取り組み方はそれぞれで少しずつ違うんだ。
詳しくは裏面をみてね!その前にたらびくんは畑を持っているの?



あがいたんでいー!
エコマーくん、色々教えてくれてありがとう!

裏面ではエコファーマーの施肥例について記載しています⇒

4. 多良間村堆肥製造施設

多良間村堆肥製造施設

製糖工場からの廃入トラッシュ(原料)



畜産農家から回収の牛フン(原料)



木材チップ化(原料)



牛フン・副資材混合切り返し(一次処理)



切り返し、攪拌(二次処理)



最終加理攪拌



完成品置き場



農地還元、散布状況



農地還元、積み置き状況



5. 日本森林学会より琉球王朝時代の多良間島の抱護と林政八書が「林業遺産」に認定



6. 「沖縄、ふるさと百選」の集落部門で認定

村をあげてゆがぶう（豊年）を願うふるさとづくり



7. 「沖縄、ふるさと百選」の

「集落部門」で認定

新緑（みどり）に包まれた

ふるさとづくり



8. 「おきなわの名木」100選の認定で、「多良間の名木」は10本指定を受ける

沖縄県は平成14年から、ふるさとの貴重な樹木を名木として認定することで、樹木の適切な保護管理に努め、地域の活性化に繋げることを目的とした「おきなわの名木」100選の認定をおこなっている。多良間の名木は10本が指定を受けている。これも先人達から樹木を植栽・維持して守り続けてきた賜物である。一例を示す。

運城ウタキのフクギ（名木認定番号083）

アマガーの西側を北に向かう道路は、多良間の民謡「タラマシュンカニ」に唄われているマイドウマリ^①道。この道の左手に運城ウタキがある。ウタキを取り巻くように植物群落があるが、ウタキに続く参道にはフクギの大木が林立している。その中でウタキの近くの一際大きなフクギが認定木である。認定番号083。樹高8m。胸高幹周2.1m。推定樹齢400年。



運城ウタキのフクギ並木



運城ウタキのフクギ

一帯の森は沖縄県指定の植物群落、ウタキは史跡文化財として村指定されている。



9. 「日本で最も美しい村」連合に加盟

令和6年1月に、「日本で最も美しい村」連合10年目審査があった。以下に要約する。

■地域資源名

①多良間の豊年祭

②生活に根ざした風水村落

■評価のポイント

☞島のありのままの姿が美しく（歴史文化、伝統芸能、自然環境、風習）島民が島を愛し守り続けている点。

☞「生活に根ざした風水村落」の姿を来訪者に伝える努力が始まった点。

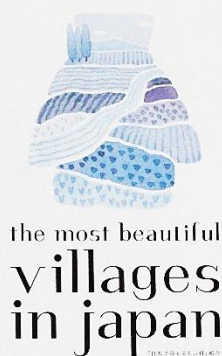
☞公共施設に赤瓦や琉球石灰岩の石垣が積極的に採用されている点。

☞フクギ並木をはじめとする防風林の維持管理が積極的に進められており、農地整備等の事業の際にも大切にされている点。

☞連合の様々な機会を積極的に活用しており、このことが、村民の加盟村意識向上や、村の情報発信および価値向上につながっている点。

以上の評価は、日本農業遺産に共通するものがある。

「日本で最も美しい村」連合



NPO法人「日本で最も美しい村」連合は、2005年10月に設立しました。先づき二重と取り組むという日本の美しい村の保護・発展を目的とし、地域資源を生かしながら美しい村としての内外へのPR活動を展開しています。今、日本各地で受け継がれてきた美しい村の風情が失われようとしています。商業化が進む農家の減少や、若年層が遠くへ出ていく、住民が過疎化するなどの状況が各地で起きている。地域に根ざした暮らしの営みにより育まれた、多くの人々の手で大切に守られてきた、美しい村の風景や生活の営みを次世代に引き継いでいくことが、私たちの使命です。美しい村の風景や生活の営みを次世代に引き継いでいくことが、私たちの使命です。美しい村の風景や生活の営みを次世代に引き継いでいくことが、私たちの使命です。



日本で最も美しい村

「生活に根ざした風水村落」

「日本で最も美しい村連合」平成22年加盟

多良間村の集落は島の北側一箇所に全て集中しており、その周囲を防風林のフクギが囲み、周辺はサトウキビ畑が基盤の目状に広がっています。これは毎年島を襲う台風被害を少しでも軽減するため、先人が知恵を絞って築いた歴史であり、「風水」を尊ぶまじないではなく生活の指針として捉えていたことを意味します。これによって形成された多良間村の景観は、沖縄諸島や日本のどの島でも目にするこのできない独特の景観を作り出しています。



the most beautiful villages in japan

多良間村
沖縄県

「多良間村の豊年祭」

祭事の多い多良間島の中でも、「豊年」を祈願・感謝して代々引き継がれてきた、伝統芸能の「八月踊り」が最も有名です。旧暦の八月八日から3日間わたって行われる盛大な祭りは、島内外からも多くの人々が観覧に訪れます。400年近く継承され、1976年に国指定重要無形文化財に指定。



10. 「多良間県立自然公園（平成23年3月29日指定）」に見る生物多様性

主な「指定理由」を以下に示す。

○多良間村（多良間島・水納島）の沿岸部においては、多種多様な海洋生物が見られるサンゴ礁が発達し、優れた海中景観を特徴とする。

○陸上部においては、石灰岩自然植生を基調とした植生が発達し、地形景観とともに風致性を高めている。多良間島には、県内に残された貴重な抱護やフクギ等の大木が広範囲に広がる自然豊かな森が残されている。

○文化的には、国指定の史跡が1件3ヵ所、県指定の史跡が2ヵ所、県指定天然記念物としての植物群落が5ヵ所、村指定天然記念物が6ヵ所存在し、さらに国、県、村合わせて65件の文化財指定がなされている。特に、国指定重要無形民俗文化財の指定を受けた「多良間の豊年祭」は、400年に近い伝統を保つ国内外に誇る重要な祭祀である。

○以上のように、多良間村は、亜熱帯の優れた風致景観と生物多様性豊かな自然環境を有しており、地域の自然的、社会的諸条件に配慮しながら、これらの保護と適正な利用の促進を図っていくため、多良間村の陸域及び周辺海域について、沖縄県立自然公園として指定された。



①陸域生物 《植生》

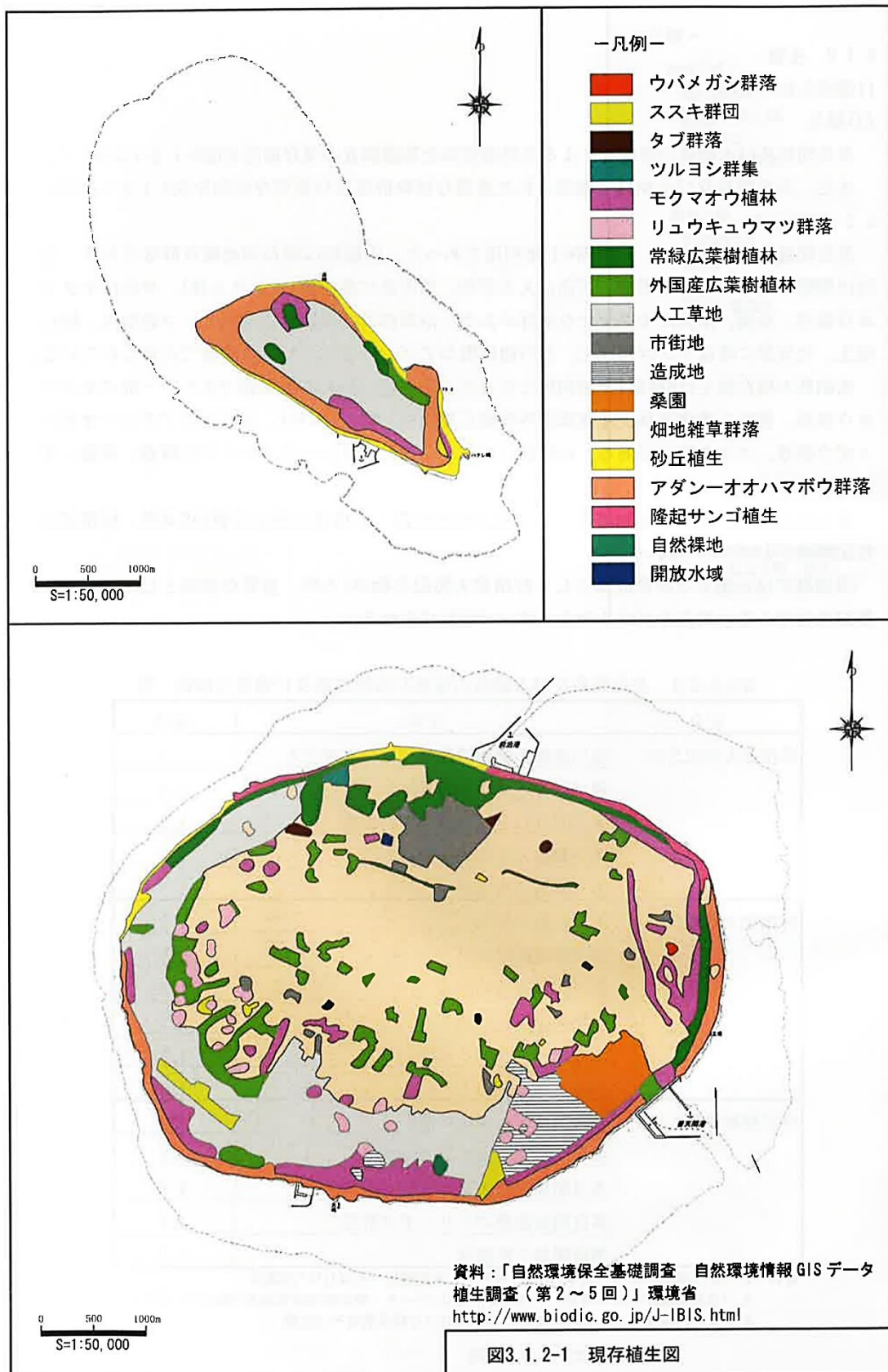
表3.1.2-1 多良間島及び水納島の重要な植物群落及び重要な植物一覧

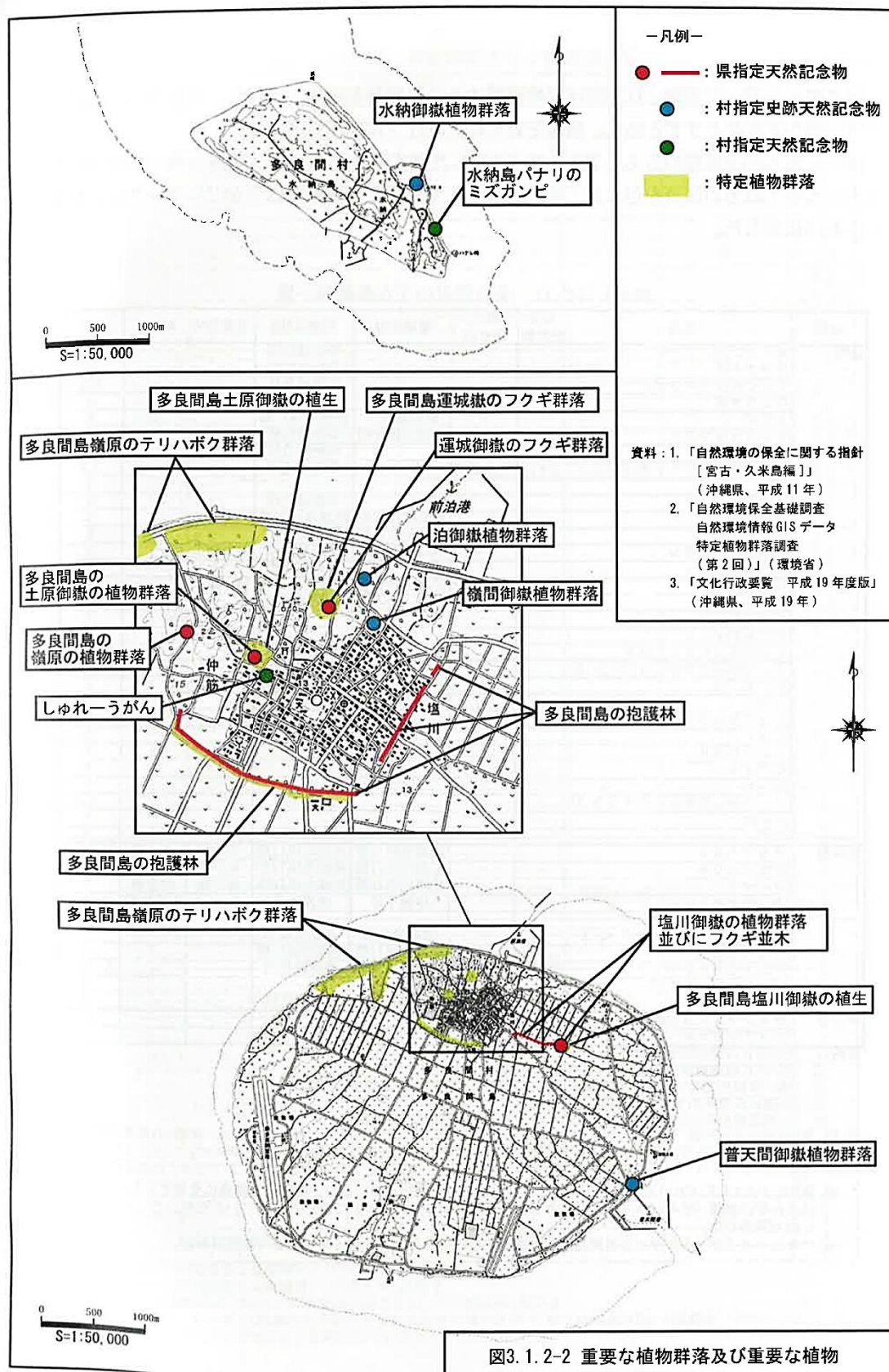
区分	名称	資料
県指定天然記念物	塩川御嶽の植物群落並びにフクギ並木	1, 3
	運城御嶽のフクギ群落	1, 3
	多良間島の土原御嶽の植物群落	1, 3
	多良間島の嶺原の植物群落	1, 3
	多良間島の抱護林	1, 3
村指定天然記念物	泊御嶽植物群落	1, 3
	嶺間御嶽植物群落	1, 3
	普天間御嶽植物群落	1, 3
	水納御嶽植物群落	1, 3
	水納島パナリのみズガンビ	1, 3
	しゅれーうがん	1, 3
特定植物群落	多良間島塩川御嶽の植生	1, 2
	多良間島運城嶽のフクギ群落	1, 2
	多良間島土原御嶽の植生	1, 2
	多良間島嶺原のテリハボク群落	1, 2
	多良間島の抱護林	1, 2

資料：1. 「自然環境の保全に関する指針[宮古・久米島編]」（平成11年）沖縄県

2. 「自然環境保全基礎調査 自然環境情報GISデータ 特定植物群落調査(第2回)」環境省

3. 「文化行政要覧 平成19年度版」（平成19年）沖縄県教育庁文化課





《陸域動物》

表3.1.2-2(1) 多良間村の主な動物種一覧

分類	和名	天然 記念物	種の 保存法	環境省RL	沖縄県RDB	水産庁DB	WWF-J	資料
鳥類	カイツブリ	-	-	-	準絶滅危惧	-	-	5
	カツオドリ	-	-	-	準絶滅危惧	-	-	5
	リュウキュウヨシゴイ	-	-	-	準絶滅危惧	-	-	3, 5
	チュウサギ	-	-	準絶滅危惧	準絶滅危惧	希少種	-	5
	ミサゴ	-	-	準絶滅危惧	絶滅危惧II類	-	-	5
	リュウキュウツミ	-	-	絶滅危惧IB類	準絶滅危惧	-	-	5
	ミフウズラ	-	-	-	準絶滅危惧	-	-	3, 5
	リュウキュウヒクイナ *1	-	-	-	準絶滅危惧	-	-	3, 5
	バン	-	-	-	-	-	-	3
	シロチドリ	-	-	-	準絶滅危惧	-	-	5
	ツバメチドリ	-	-	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類	-	-	3
	ベニアジサシ	-	-	絶滅危惧II類	準絶滅危惧	-	-	5
	エリグロアジサシ	-	-	準絶滅危惧	準絶滅危惧	減少傾向	-	5
	セグロアジサシ	-	-	-	準絶滅危惧	-	-	5
	コアジサシ	-	国際希少	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類	減少傾向	-	5
	クロアジサシ	-	-	-	準絶滅危惧	-	-	5
	キジバト	-	-	-	-	-	-	3
	ズアカアオバト	-	-	-	-	-	-	3
	リュウキュウコノハズク	-	-	-	準絶滅危惧	-	-	5
	リュウキュウアカショウビン *1	-	-	-	準絶滅危惧	-	-	3, 5
	ヤツガシラ	-	-	-	準絶滅危惧	-	-	5
	ツバメ	-	-	-	-	-	-	3
	リュウキュウツバメ	-	-	-	-	-	-	3
	ヒヨドリ	-	-	-	-	-	-	3
	イソヒヨドリ	-	-	-	-	-	-	3
	ウグイス	-	-	-	-	-	-	3
	セッカ	-	-	-	-	-	-	3
	リュウキュウサンコウチョウ *1	-	-	-	情報不足	-	-	3, 5
	メジロ	-	-	-	-	-	-	3
	スズメ	-	-	-	-	-	-	3
爬虫類	アカウミガメ	-	-	絶滅危惧IB類	絶滅危惧II類	希少種	希少種	3
	アオウミガメ	-	-	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類	希少種	希少種	3
	タイマイ	-	-	絶滅危惧IB類	絶滅危惧IB類	希少種	危急種	3
	タシロヤモリ	-	-	情報不足	情報不足	-	未決定種	2
	ホオグロヤモリ	-	-	-	-	-	-	2, 3
	サキシマキノボリトカゲ *2, 3	-	-	準絶滅危惧	準絶滅危惧	-	-	2
	ミヤコトカゲ	-	-	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類	-	-	5
	キシノウエトカゲ	国指定	-	絶滅危惧II類	準絶滅危惧	-	-	2, 3, 4, 5
	サキシマスベトカゲ	-	-	-	-	-	-	3
	サキシマアオヘビ	-	-	準絶滅危惧	準絶滅危惧	-	-	4
両生類	サキシマヌマガエル *2	-	-	-	-	-	-	2, 3
	ヒメアマガエル	-	-	-	-	-	-	2

資料:1. 「第2回自然環境保全基礎調査」(昭和55年)環境庁

2. 「第3回自然環境保全基礎調査」(平成元年)環境庁

3. 「種の多様性調査(第6回自然環境保全基礎調査)」(平成14年)環境省

4. 「沖縄県環境利用ガイド」(平成4年)沖縄県

5. 「自然環境の保全に関する指針[宮古・久米島編]」(平成11年)沖縄県

注:*1 資料3ではそれぞれ「ヒクイナ」「アカショウビン」「サンコウチョウ」となっているが、資料3の鳥類調査は繁殖分布調査であり、現在南西諸島で繁殖するものはそれぞれ亜種「リュウキュウヒクイナ」「リュウキュウアカショウビン」「リュウキュウサンコウチョウ」とであるとされているため、ここではこれを採用した。

*2 資料2, 3ではそれぞれ「キノボリトカゲ」「ヌマガエル」となっているが、現在先島諸島に生息するものはそれぞれ亜種「サキシマキノボリトカゲ」「サキシマヌマガエル」とであるとされているため、ここではこれを採用した。

*3 サキシマキノボリトカゲは多良間島からの報告がないことから、記載ミスである可能性がある。

表3.1.2-2(2) 多良間村の主な動物種一覧

分類	和名	天然 記念物	種の 保存法	環境省RL	沖縄県RDB	水産庁DB	WWF-J	資料
昆虫類	リュウキュウベニイトトンボ	-	-	-	-	-	-	3
	アオモンイトトンボ	-	-	-	-	-	-	3
	ギンヤンマ	-	-	-	-	-	-	3
	タイリクショウジョウトンボ	-	-	-	-	-	-	3
	ハラボソトンボ	-	-	-	-	-	-	3
	ウスバキトンボ	-	-	-	-	-	-	3
	イワサキクサゼミ	-	-	-	-	-	-	2
	ミヤコニイニイ	-	-	-	-	-	-	1
	シロヘリハンミョウ	-	-	-	-	-	-	3
	アオスジアゲハ	-	-	-	-	-	-	2,3
	ベニモンアゲハ	-	-	-	-	-	-	2,3
	シロオビアゲハ	-	-	-	-	-	-	2,3
	ナミアゲハ	-	-	-	-	-	-	2,3
	カワカミシロチョウ	-	-	-	-	-	-	3
	ナミエシロチョウ	-	-	-	-	-	-	2,3
	モンシロチョウ	-	-	-	-	-	-	2,3
	ウラナミシロチョウ	-	-	-	-	-	-	2,3
	キチョウ	-	-	-	-	-	-	2,3
	ツマベニチョウ	-	-	-	-	-	-	3
	ウラナミシジミ	-	-	-	-	-	-	2,3
	タイワンクロホシシジミ	-	-	-	-	-	-	2,3
	ヤマトシジミ	-	-	-	-	-	-	2,3
	ハマヤマトシジミ	-	-	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧	-	-	2,3
	シルビアシジミ	-	-	-	-	-	-	2,3
	カバマダラ	-	-	-	-	-	-	2,3
	シロオビマダラ	-	-	-	-	-	-	2,3
	オオゴマダラ	-	-	-	-	-	-	2,3
	リュウキュウアサギマダラ	-	-	-	-	-	-	2,3
	アサギマダラ	-	-	-	-	-	-	2,3
	スジグロカバマダラ	-	-	-	-	-	-	2,3
	ヒメアカタテハ	-	-	-	-	-	-	2,3
	ヤエヤマムラサキ	-	-	-	-	-	-	2,3
	リュウキュウムラサキ	-	-	-	-	-	-	2,3
	メスアカムラサキ	-	-	-	-	-	-	2,3
	タテハモドキ	-	-	-	-	-	-	2,3
	アオタテハモドキ	-	-	-	-	-	-	2,3
	ルリタテハ	-	-	-	-	-	-	2,3
	アカタテハ	-	-	-	-	-	-	2,3
	ウスイロコノマチョウ	-	-	-	-	-	-	2,3
	オキナワクロホウジャク	-	-	-	-	-	-	3
	イチモンジホウジャク	-	-	-	-	-	-	3
	ホシホウジャク	-	-	-	-	-	-	3
	クロオビホウジャク	-	-	-	-	-	-	3
	ホウジャク	-	-	-	-	-	-	3
	ヒメホウジャク	-	-	-	-	-	-	3
陸生貝類	ヤエヤマヤマキサゴ	-	-	-	-	-	-	3
	ウスイロオカチグサガイ	-	-	-	-	-	-	3
	ヌノメカワニナ	-	-	-	-	-	-	3
	ナガケシガイ	-	-	準絶滅危惧	準絶滅危惧	-	-	3
	ヒメモノアラガイ	-	-	-	-	-	-	3
	アシヒダナメクジ	-	-	-	-	-	-	3
	オキナワヒメオカモノアラガイ	-	-	-	-	-	-	3
	ノミガイ	-	-	絶滅危惧Ⅰ類	-	-	-	3
	スナガイ	-	-	準絶滅危惧	-	-	-	3
	シモチキバサナギガイ	-	-	-	-	-	-	3
	タラマノミギセル	-	-	-	-	-	-	3
	イトカケマイマイ	-	-	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類	-	-	3
	マルオカチョウジガイ	-	-	-	-	-	-	3
	オカチョウジガイ	-	-	-	-	-	-	3
	オオオカチョウジガイ	-	-	-	-	-	-	3
	シリブトオカチョウジガイ	-	-	-	-	-	-	3
	サツマオカチョウジガイ	-	-	-	-	-	-	3
	ナハキビ	-	-	-	-	-	-	3
	コスジキビ	-	-	-	-	-	-	3
	ニイジマシタラガイ	-	-	-	-	-	-	3
	ヒラシタラガイ	-	-	-	-	-	-	3
	オキナワウスカワマイマイ	-	-	-	-	-	-	3
	タママイマイ	-	-	-	-	-	-	3
	アカマイマイ	-	-	-	-	-	-	3
	オオマオオベソマイマイ *1	-	-	準絶滅危惧	-	-	-	3
	タラマケマイマイ	-	-	-	-	-	-	3

資料:1. 「第2回自然環境保全基礎調査」(昭和55年)環境庁

2. 「第3回自然環境保全基礎調査」(平成元年)環境庁

3. 「種の多様性調査(第6回自然環境保全基礎調査)」(平成14年)環境省

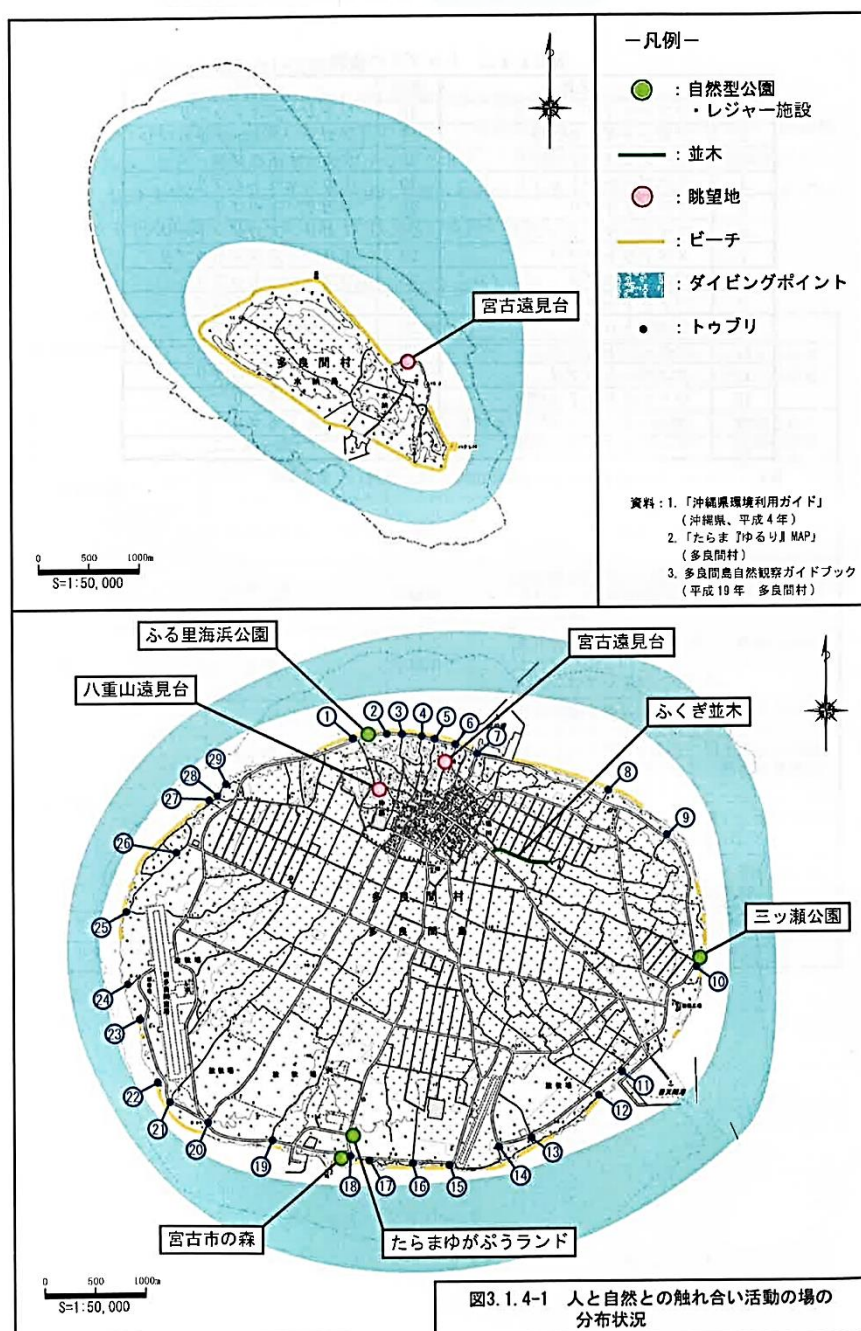
注:*1 「環境省レッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)陸・淡水産貝類」(環境省、2005)では、「オオマオオベソマイマイ」と記載されている。

《トゥブリ》

表3.1.4-2 トウブリの名称

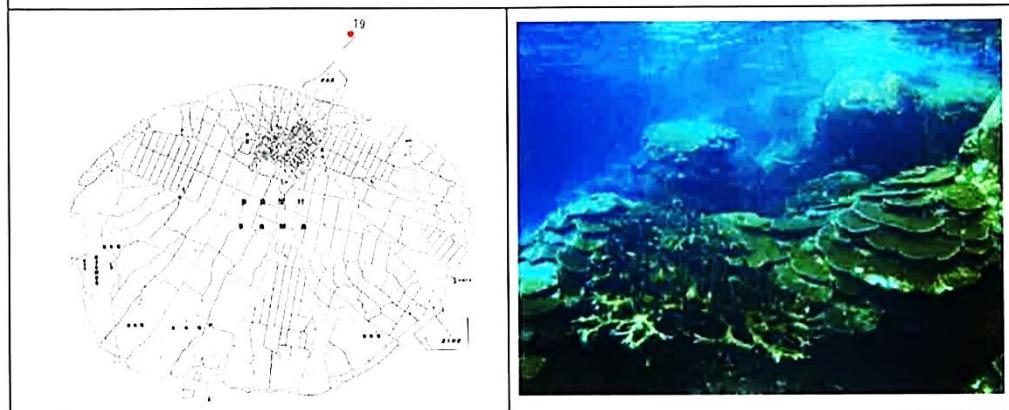
番号	名称	番号	名称
1	ウブドウマリ ^o トゥブリ	16	シャカマディトゥブリ
2	ナガシヤギトゥブリ	17	アガリ ^o タカアナトゥブリ
3	マーシメートゥブリ	18	タカアナトゥブリ
4	クナガシヤギトゥブリ	19	ナカシヤラトゥブリ
5	クディトゥブリ	20	マグリ ^o トゥブリ
6	マイドゥマリ ^o トゥブリ	21	アガリ ^o アカダントゥブリ
7	ヌヌドゥトゥブリ	22	イリ ^o アカダントゥブリ
8	ウカバトゥブリ	23	ウブドゥートゥブリ
9	バナリトゥブリ	24	スシェキバマトゥブリ
10	ミッジトゥブリ	25	タカシバマトゥブリ
11	フタッジトゥブリ	26	バイヌツジトゥブリ
12	タニガートゥブリ	27	アラダトゥブリ
13	ウドゥルタマトゥブリ	28	タカタトゥブリ
14	ウェーダーマ ^o トゥブリ	29	オールトゥブリ
15	ケーシャリ ^o トゥブリ		

資料：「Tarama Island Minna Island GUIDEMAP 多良間村」 多良間村



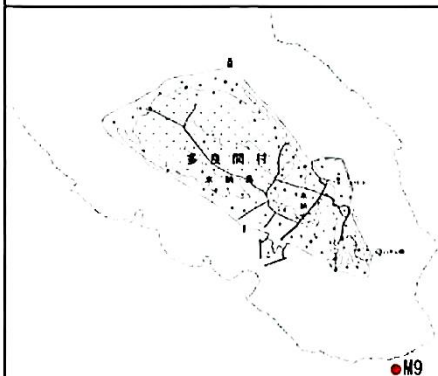
《海域調査》 多良間島、水納島の周辺は豊かなサンゴ礁が発達、2 地点を示す

島名	多良間島
日時	2008/7/7
地点番号	T9
地点名(ダイビングポイント名など)	前泊港沖防波堤
緯度経度	N24° 40' 58.4" 124° 42' 40.3"



地点の状況		攪乱要因		よく見られる生物	
水深(m)	38	オニヒトデ個体数	—	・個体数の多い魚類 デバスズメダイ、モンツキアカヒメジ、 ・大型の個体が見られた魚類 スジクロハギ、クロモンガラ、キツネフエフキ	
底質の概観	岩盤・コンクリート	オニヒトデ優占サイズ	—		
地形	礁斜面	サンゴ類食巻貝の発生状況	—		
サンゴ				藻場	
サンゴ全体被度	25%以上50%未満	よく見られるサンゴ類		藻場被度	無
生育型類型	多種混成型	卓状ミドリイシ属、枝状ミドリイシ属		藻場構成種	
サンゴ白化の段階	1%未満 白化なし			—	

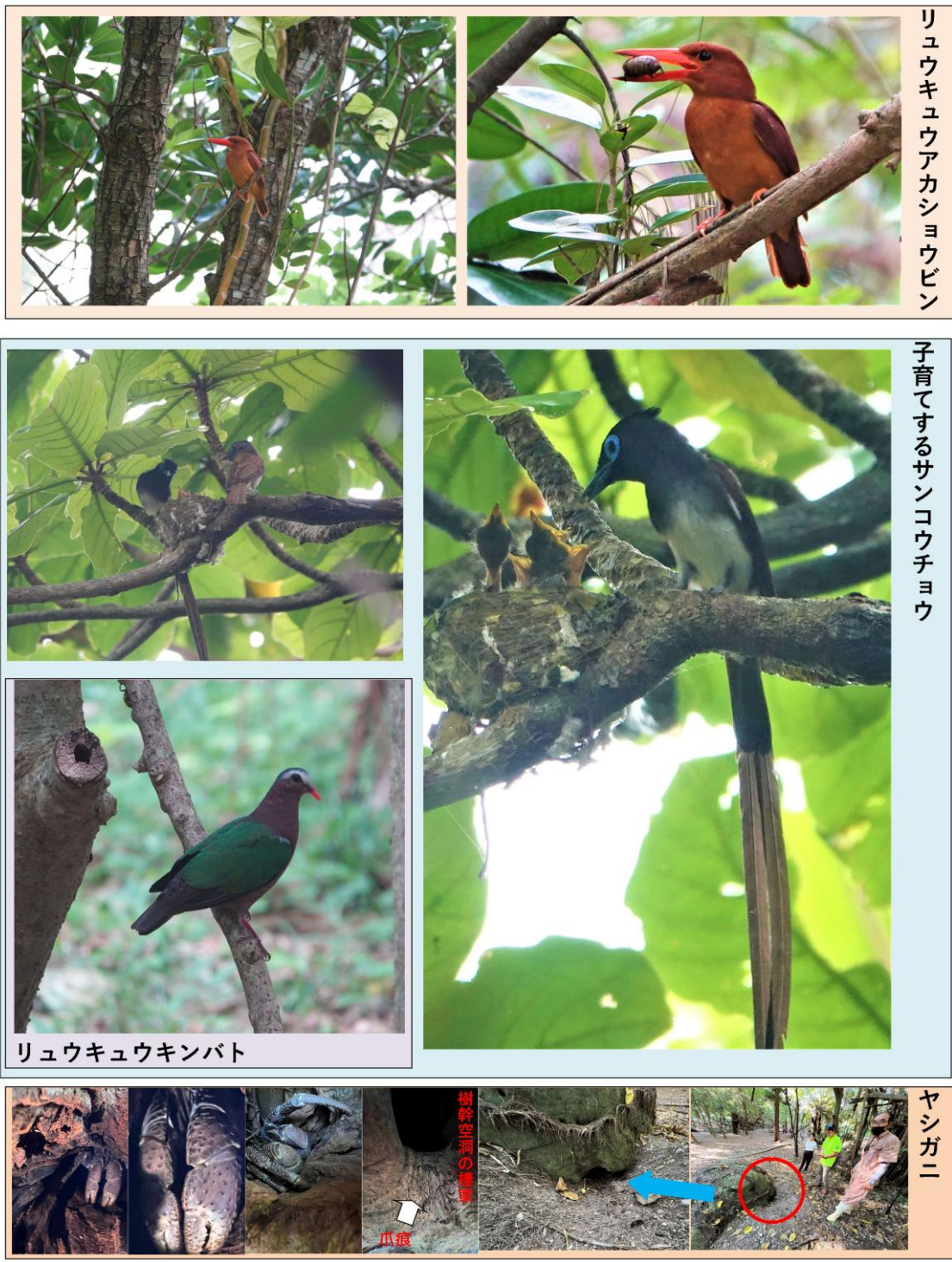
島名	水納島
日時	2008/7/9
地点番号	M9
地点名(ダイビングポイント名など)	—
緯度経度	N24° 44' 13.8" E124° 42' 31.0"



地点の状況		攪乱要因		よく見られる生物	
水深(m)	5.1	オニヒトデ個体数	1	・個体数の多い魚類 オキナワスズメダイ ・大型の個体が見られた魚類 ヒトツラハリセンボン、アオノメハタ、ナンヨウブダイ	
底質の概観	岩盤	オニヒトデ優占サイズ	20cm以下		
地形	礁斜面	サンゴ類食巻貝の発生状況	－		
サンゴ				藻場	
サンゴ全体被度		25%以上50%未満	よく見られるサンゴ類	藻場被度	無
生育型類型		枝状・卓状ミドリイシ優占型	卓状ミドリイシ属、枝状ミドリイシ属、カメノコキクメイシ属、コカメノコキクメイシ属	藻場構成種	
サンゴ白化の段階		1%未満 白化なし		－	

1 1. 写真で見る生物多様性（浜抱護の林帯に生息する鳥類やヤシガニ）

■ タカアナトウブリの浜抱護の林帯に生息する鳥類やヤシガニ ②4(2)4)C-D P69 補足



12. 写真で見る腰当森（クサティムイ）・浜抱護

④4(5)1) P108 補足

写真で見る腰当森（クサティムイ）・浜抱護



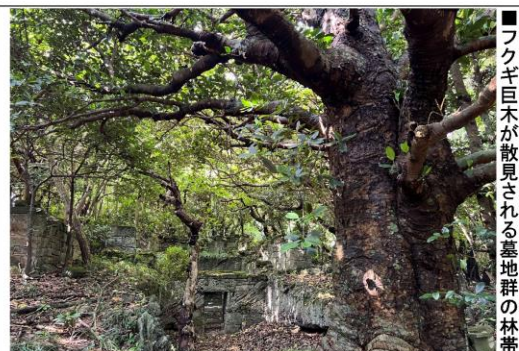
▲朝の光が差す「運城御嶽」。御嶽より鳥居を望む
(県指定天然記念物 運城御嶽のフクギ群落)



▲左の道は墓地群へ、右の道は泊御嶽、マイドゥマリトウブリへ



▲緑に包まれた「泊御嶽」。旧8月8日から始まる八月踊の正日、八月御願が早朝から執り行われる。三日間演じられる八月踊りは「奉納余興」である



■フクギ巨木が散見される墓地群の林帯



■腰当森の林帯



■腰当森と浜抱護の境界付近にスマフシヤラを吊るす



■トウブリ



■トウブリから浜抱護を望む



■浜抱護からトウブリを望む



■浜抱護

13. 写真で見る祭祀「スマフシャラ（秋祓い）」

⑤4(1) P91 補足

スマフシャラ（秋祓い）のモデル図

▲左縄は老人座、中老座が縫う

▲三枚肉
▲だし汁昆布煮付

◆料理は実行員の担当

■スマフシャラ

■風雨に堪えた昨年のスマフシャラを取替える

■秋祓いは立春の日に字単位で行う。外部から疫病や魔を祓い退ける。合流点は早く到着した字が設置して（左）

▲合流点での設置作業

■ソウキ汁
■中身汁
■デヒチ汁

▲夕方から疫病や魔を祓い、豊年を祈願しながら宴会が行われる

■一神社五御嶽で秋祓い（多良間神社）
■中老・老人座

14. 写真で見る祭祀「スツウプナカのトゥブリでの安全・豊漁祈願」

⑫4(2)5)B P74



①集落からトゥブリに至る浜抱護の緑のトンネル



②トゥブリから海を望む。ピシやイヌーが広がる



③漁に行く前にはトゥブリの海の神に安全豊漁を祈願した

写真 4-(2)-5-6 海へ至道「トゥブリ」3景



タカアナトゥブリ

写真 4-(2)-5-5 浜抱護にみるアダンやモクマオなどの海岸植生。砂地はトゥブリ



▲スツウプナカでは、トゥブリに安全・豊漁を祈願してから漁に向かう



①揚げ魚



②かまぼこ



③かまぼこ入り魚汁

図 4-(2)-5-6 神に捧げる海の幸の供物



■浜抱護を抜けると青い空、「豊饒の海」が広がる

15. 水納島における抱護の造成史

水納島は多良間島の北西約 10km に位置し、その面積は多良間島の 9 分の 1 程 (2.15 km²) の小さな平坦な孤島である。そのため多良間島より冬の季節風や台風の影響をもろに受けやすく、これらの自然災害から島の生活環境を守るため、昔から島を囲繞する抱護が造成されてきた。今でもその痕跡が海岸沿いのアダン林、テリハボクの防風防潮林(写真 15-3)、水納御嶽や集落跡地のフクギ林として残されている。

宮古島の頭職を代々勤めてきた白川氏の家譜資料によれば、琉球王国の「公事」として水納島に「針竿」(地積測量) 調査などが入ったのは、1744 年からである。それ以前の 1741 (乾隆 6) 年には、多良間島の「山敷針竿」(山林測量) などが実施されており、多良間島調査の 3 年後から水納島の土地測量と同時に、島内における抱護の造成の指針が示され実施されていた、と考えられる (多良間村史第 1・2 巻、2000・1986)。

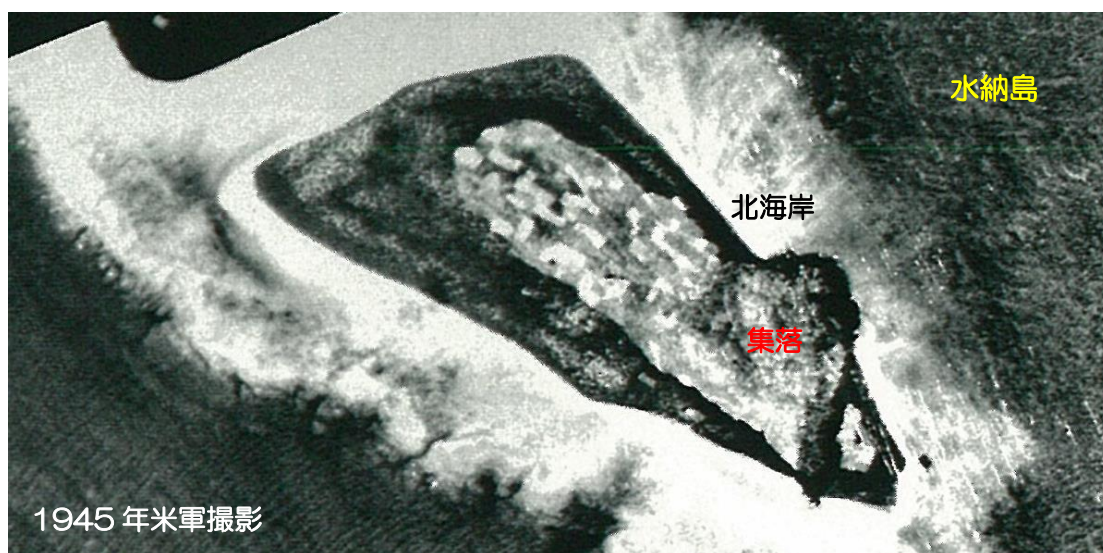


写真 15-1 琉球王府は 1845 年に島を囲繞する抱護を造成。海浜帯にヤラブ (テリハボク) の造林



写真 15-2 現在の水納島。島の東部には集落と御嶽を囲むように抱護が囲繞する

この水納島における抱護の造成から 27 年後に、石垣島を震源とする「明和の大津波」が発生し、その影響で水納島の自然・生活環境が一変する。

この大津波によって、「多良間島は、人口 3,324 名の内 362 名波に引き流されて溺死し」、水納島にいたっては、「人一人も残らず、家財諸草木までもすべて引き流され村形もなく所々大石小石白砂杯寄せ揚げ石原になり、また井戸も崩れ跡形も見えず」（多良間村史第 1 巻、2000）、という惨状になっていた。

王府はこの水納島が八重山と宮古島を往来する船舶の一時停泊する島としての重要性に鑑み、早速、用水確保のために多良間島から技術者を派遣して、この島における井戸の掘削など、村の再建に乗り出していった。1773 年には、在番（役所）役人と数世帯が水納島に渡り、村の組立てと家造りに取り組んでいる。1774～1778 年には耕地の整備などが行われ、徐々に島民の生活基盤が整えられていった（多良間村史第 1 巻、2000）。



写真 15-3 緑のトンネル。島南側の水納港から集落に向かう途中のテリハボクの抱護

水納島における村の再建が完了したあと、王府は島を囲繞する抱護の造成に取り組み、1845 年には、水納島の海浜帯にヤラブ（テリハボク）の造林を行っている（多良間村史第 1 巻、2000）。ちなみに、水納御嶽の参道にはフクギ巨木が林立しているが、その内の最大木（DBH の直径 54.14cm）から推定すると、172 年の樹齢になる。この数値を調



写真 15-4 現在の水納島の集落。奥に北側の抱護

査年(2020)から遡ると、1848 年ごろに植えられたことが分かる（福木巨木の巡礼誌、2021）。先のテリハボクとほぼ同時期に植栽されたことになる(写真 15-5～8)。おそらくこのことは、1771 年の「明和の大津波」のあと村建てが一段落し、その後、70 年余をかけて抱護の植栽・再植林に取り組んできた歴史的事実を示すものであろう。明治大正期にも、島の北側の抱護の空隙を埋めるために、テリハボクの大造林が行われている事実が確認できる(写真 15-1)

〔多良間村史第3巻、2005〕。

1935（昭和10）年の国勢調査によれば、水納島には265人が住み主に漁業に従事していたようだが、1961（昭和36）年の台風被害と人口飽和状態をきっかけに、同年（1961）には琉球政府の計画移民政策によって、18戸（当時28戸）が宮古島の大野越に移住している。2016年には水納島の人口は1世帯5人に急減、2021年には2世帯3人になり、現在、180年前から造成されてきた抱護内で数百頭の牛の飼育を主な生業とする生活が続いている（（大山、1983、Wikipedia、YAHOOJAPAN 検索水納島））。



写真 15-5 フクギの参道と途中の鳥居



写真 15-6 ミンパ・ハウスを祀った水納御嶽



写真 15-7 参道のフクギ。樹齢の推定式から王府が1845年にヤラブ造林の植栽年と一致する



写真 15-8 石灰岩の隙間を縫って逞しく生きる御嶽北のフクギ群。その生命力には驚く

引用文献

多良間村史編集委員会編. 2000. 多良間村史第1巻通史編島のあゆみ. 多良間村. 116-117頁.

多良間村史編集委員会編. 1986. 多良間村史第2巻資料編I（王国時代の記録）. 多良間村. 44・47頁.

多良間村史編集委員会編. 多良間村史第1巻. 多良間村. 125-126頁. 129頁.

同上. 多良間村史第1巻. 117頁.

仲間勇栄・来間玄次. 2021. 福木巨木の巡礼誌. 編集工房東洋企画. 210頁.

多良間村史編集委員会編. 2005. 多良間村史第3巻資料編2近現代の社会と生活. 多良間村. 160・162頁.

大山春翠. 水納島. 1983. 沖縄大百科事典下巻. 沖縄タイムス社. 622頁.

フリー百科事典『ウィキペディア Wikipedia』の多良間村水納島の項目より.

<https://nihonshima.net/sima4/okinawa/minnatarama.html>